

令和3年度 流山小学校 学校評価について

1 学校評価の実施にあたって

今年度の学校評価を実施するにあたって、昨年度に引き続き保護者、児童、および教職員に対して同じ項目で評価を行うことで、それぞれの立場から見た評価結果を比較分析できるようにしています。また、昨年度と質問項目を同じものにしており、昨年度からの経年変化を見て今後のより良い教育活動実現に向けて考察しました。

2 評価の方法

実施時期・・・令和3年11月8日（月）～ 14日（日）

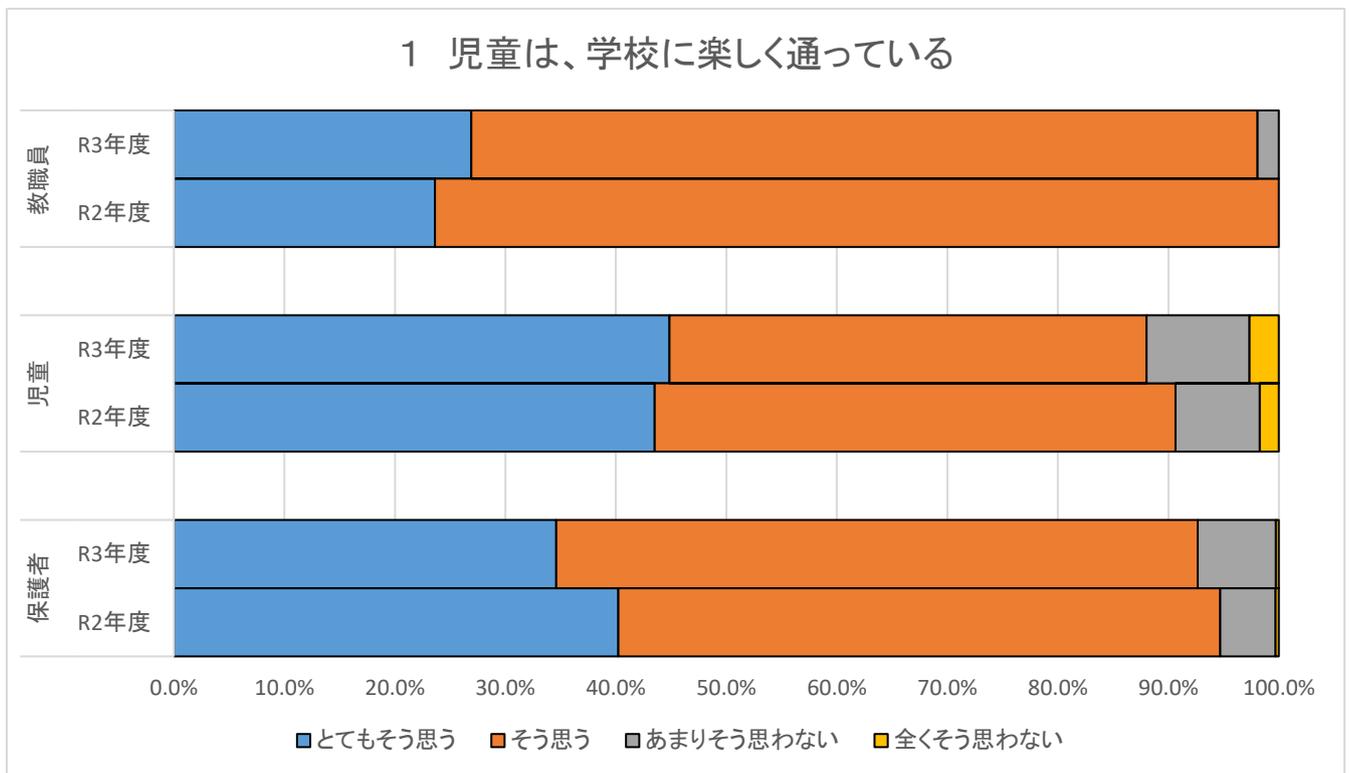
実施方法・・・アンケート方式

3 考察

質問項目ごとの考察は以下のとおりです。

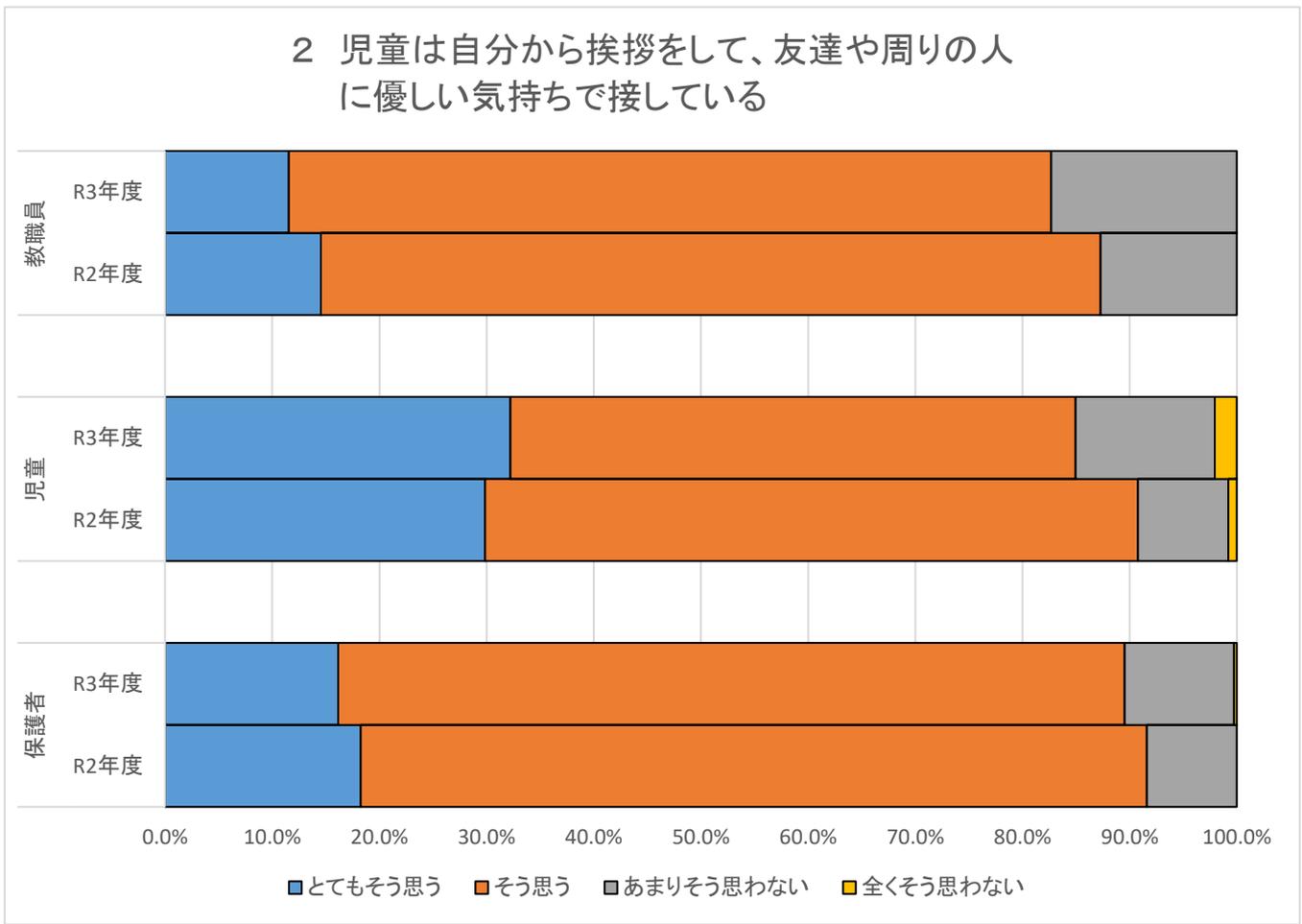
(1) 児童は学校に楽しく通っている。

保護者、児童、教職員共に肯定的な回答が90%を超え、ほとんどの児童が楽しく通えていることがわかります。しかし、昨年度同様、楽しく通えていない児童が一定数いることを見逃さず、児童一人一人に寄り添い、保護者の方と連携しながら不安や悩みの把握と解消に努めて参りたいと思います。



(2) 児童は、自分から挨拶をして、友達や周りの人に優しい気持ちで接している。

本校では「めえげこ（めをみて、えがおで、げんきに、こころをこめて）」を合い言葉にしてあいさつ運動を行っています。子供たちの思いを綴った150周年記念歌の歌詞にも登場するなど挨拶に対する意識は高いと思われます。気持ちの良い挨拶はお互いの心を通わせられることはもちろん、防犯上の観点からも地域の人と挨拶で繋がることで犯行の抑止力になると言われています。今年度のアンケートの結果は残念ながら昨年度よりも少し数値が下がってしまいました。まずは、教職員や大人が子供たちの手本となるような挨拶を心掛け、子供たちが自発的に気持ちの良い挨拶ができるように工夫して取り組んで参りたいと思います。

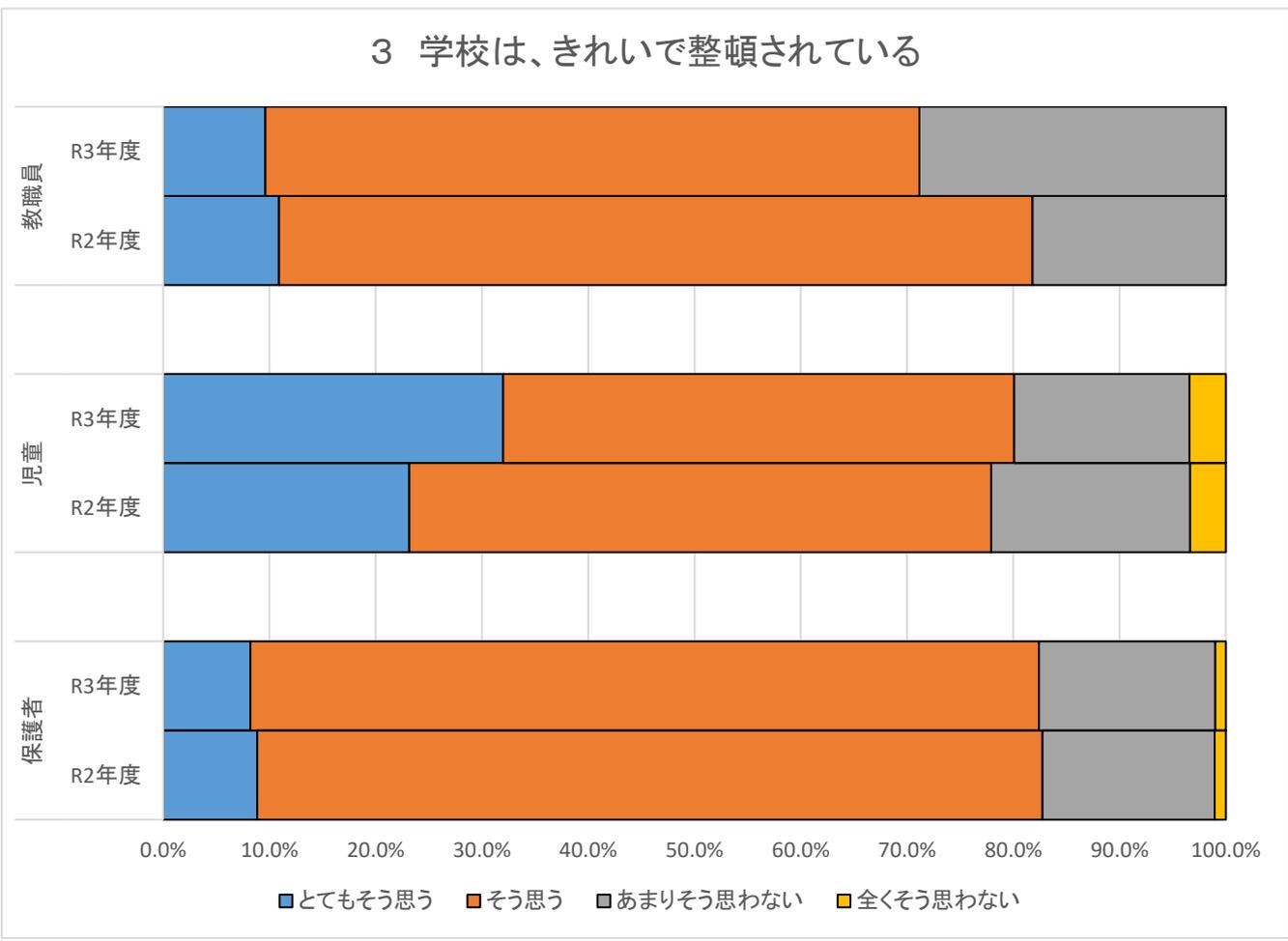


(3) 学校は、きれいで整頓されている。

昨年度と同様に肯定的な回答は全体的に 70~80%程度となりました。本校の学校経営方針に「清潔で整頓された気持ちの良い学校」を掲げており、今年度、教職員で構成する環境改善委員会を立ち上げ、少しずつ整備を進めているところです。教職員の数値が下がった原因としては、昨年度よりもさらに環境整備に意識を向けたことで、改善するべきところが見えてきた結果によるものと考えています。

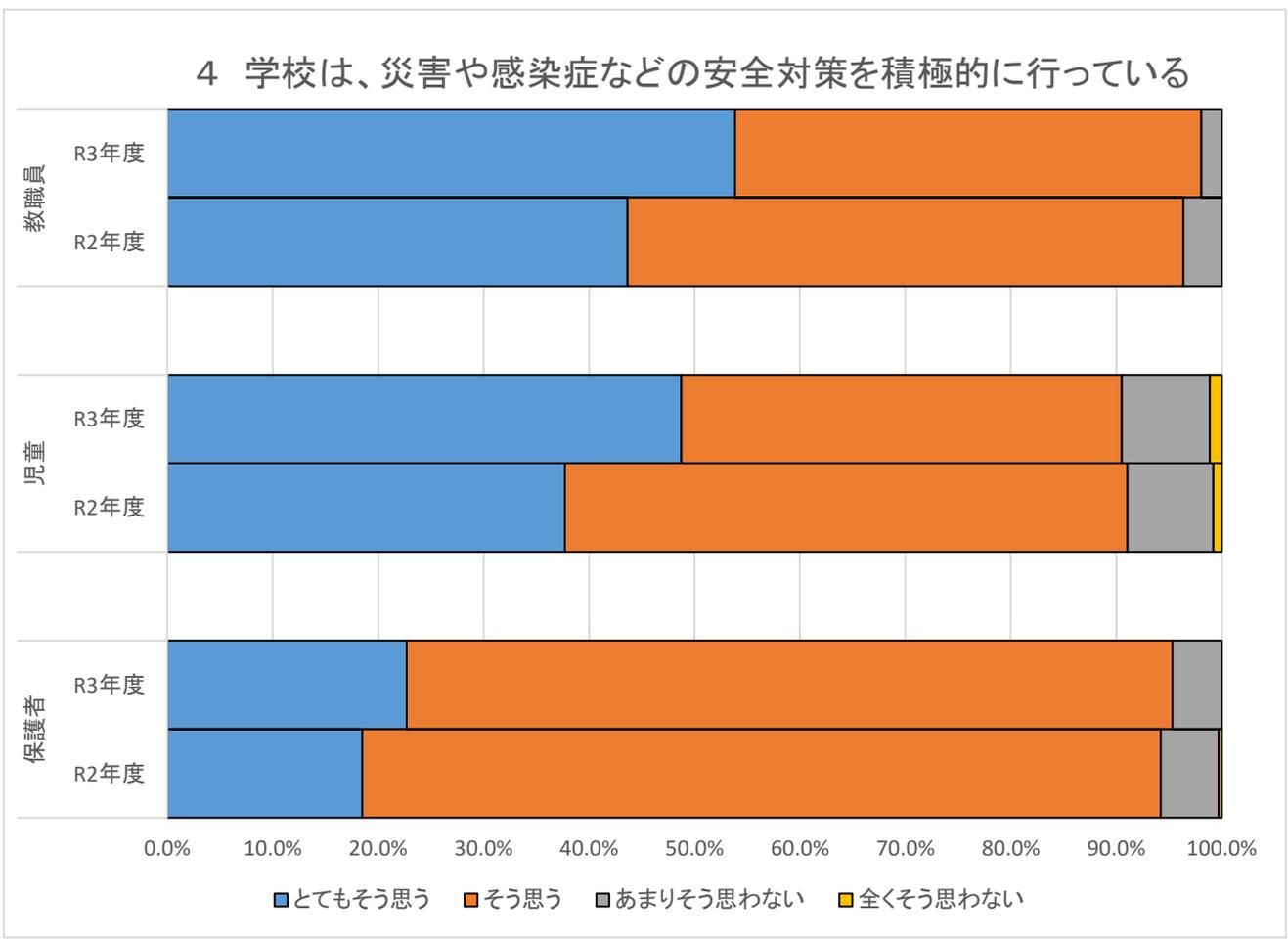
また、今年度はPTAのボランティアさんと教職員で夏休みに壁のペンキ塗りを行ったり、一家庭一協力の校庭の草むしりや清掃ボランティア活動で校舎の清掃を行ったりして、保護者の皆様のお力添えをいただきました。

150年の歴史のある学校ですので、老朽化している箇所については、市とも連携を図り順次改修作業を行っています。今回のアンケートで保護者の皆様からいただきました貴重なご意見を参考にさせていただき、今後も環境整備に取り組んで参りたいと思います。



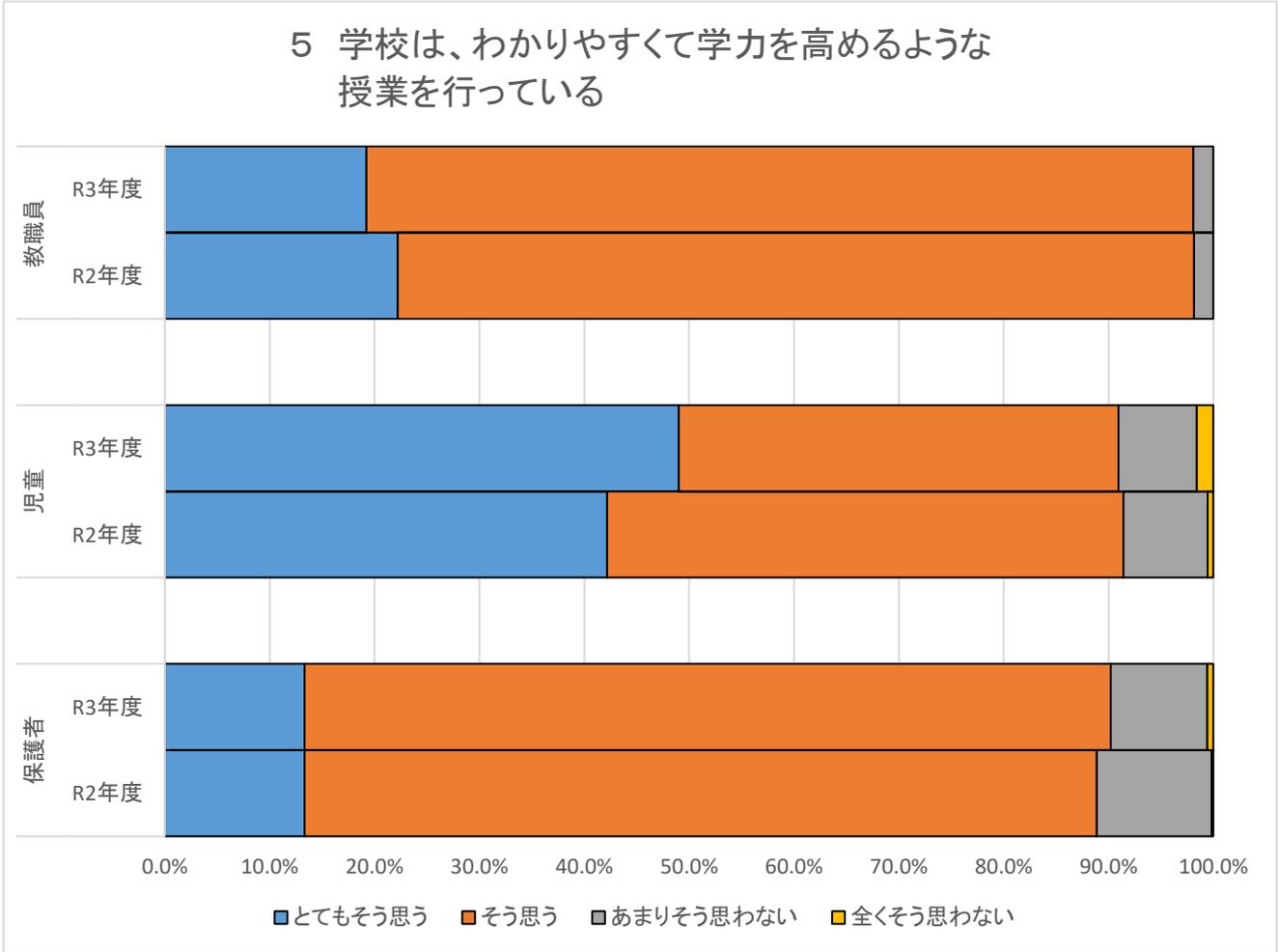
(4) 学校は、災害や感染症などの安全対策を積極的に行っている。

肯定的な回答が全体的に 90～95%と高く、今年度も特にコロナ対策で感染症拡大防止に対する意識が児童、保護者、教職員共に高かったことが表れていると思います。学校の感染症対策について、これまで保護者の皆様にはご理解ご協力いただきましてありがとうございます。自由意見からは、コロナ禍でも学校が工夫して行事を行っていることに感謝の意を表していただいたご意見がある一方、行事を減らしすぎているのではないかというご指摘もいただきました。いただいたご意見を真摯に受け止め、子供の学びを止めずに感染症対策を講じながら安心して学校生活を送れるように、また保護者の皆様が安心して学校にお子様をお預けできるように今後も取り組んで参ります。



(5) 学校はわかりやすくて学力を高めるような授業を行っている。

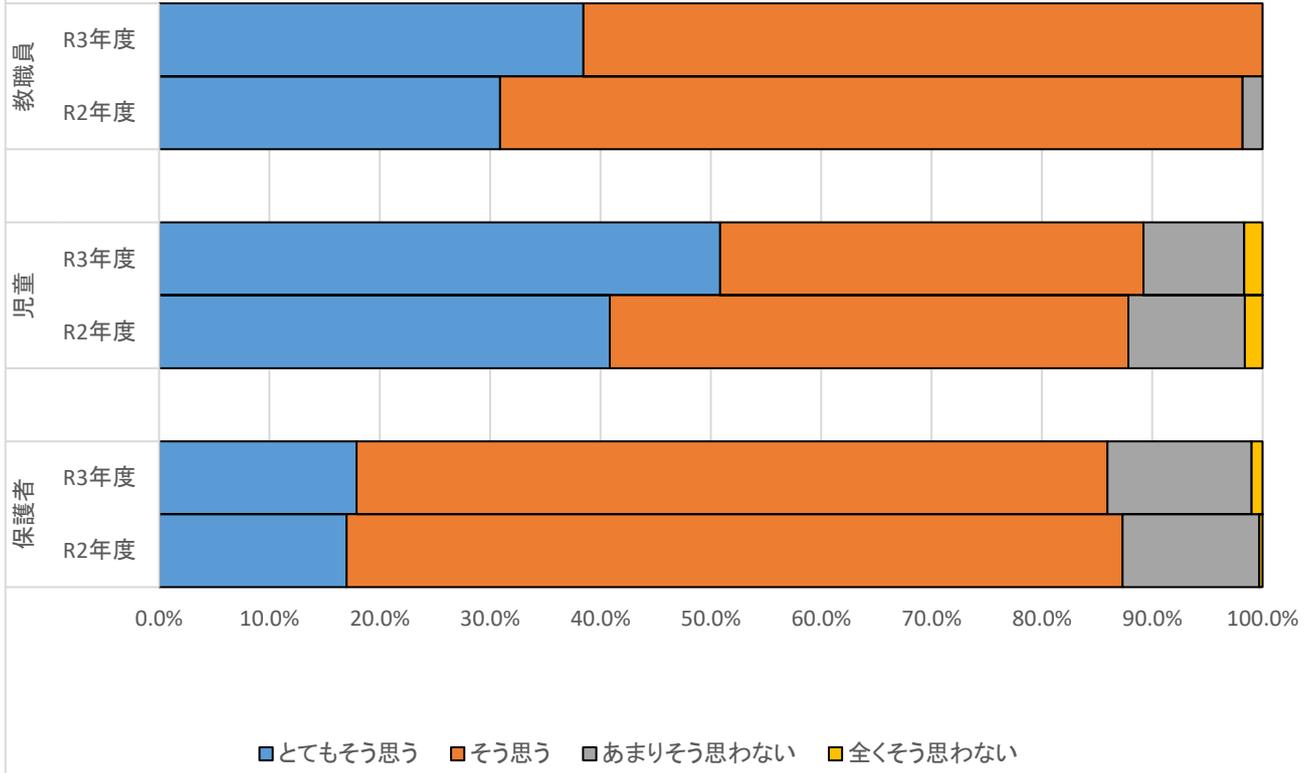
保護者・児童の評価に比べ教職員は評価が高いので、自己評価に甘んじることなく、改善を要する回答をした児童や保護者の皆様のご意見にしっかりと耳を傾け、わかりやすい授業を目指して日々研修を積んで参りたいと思います。今年度から児童一人一人がタブレットパソコンを活用した授業が始まり、我々教員も児童の理解を深めるために効果的な活用方法を取り入れていきたいと思っています。



(6) 学校は、一人一人の特性を大切に指導・支援を行っている。

児童の約半数が「とてもそう思う」と回答し、昨年度から10%増えました。「そう思う」と合わせると90%の児童が肯定的に捉えています。一方で「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と答えた児童が10%いることがわかりました。子供自身が先生に自分のことをわかってもらえていると感じることはとても大切なことであるため、今後さらに「そう思う」と回答する児童が増えるように、保護者の皆様と連携を図りながら一人一人の特性を大切にされた指導・支援に努めて参りたいと思います。

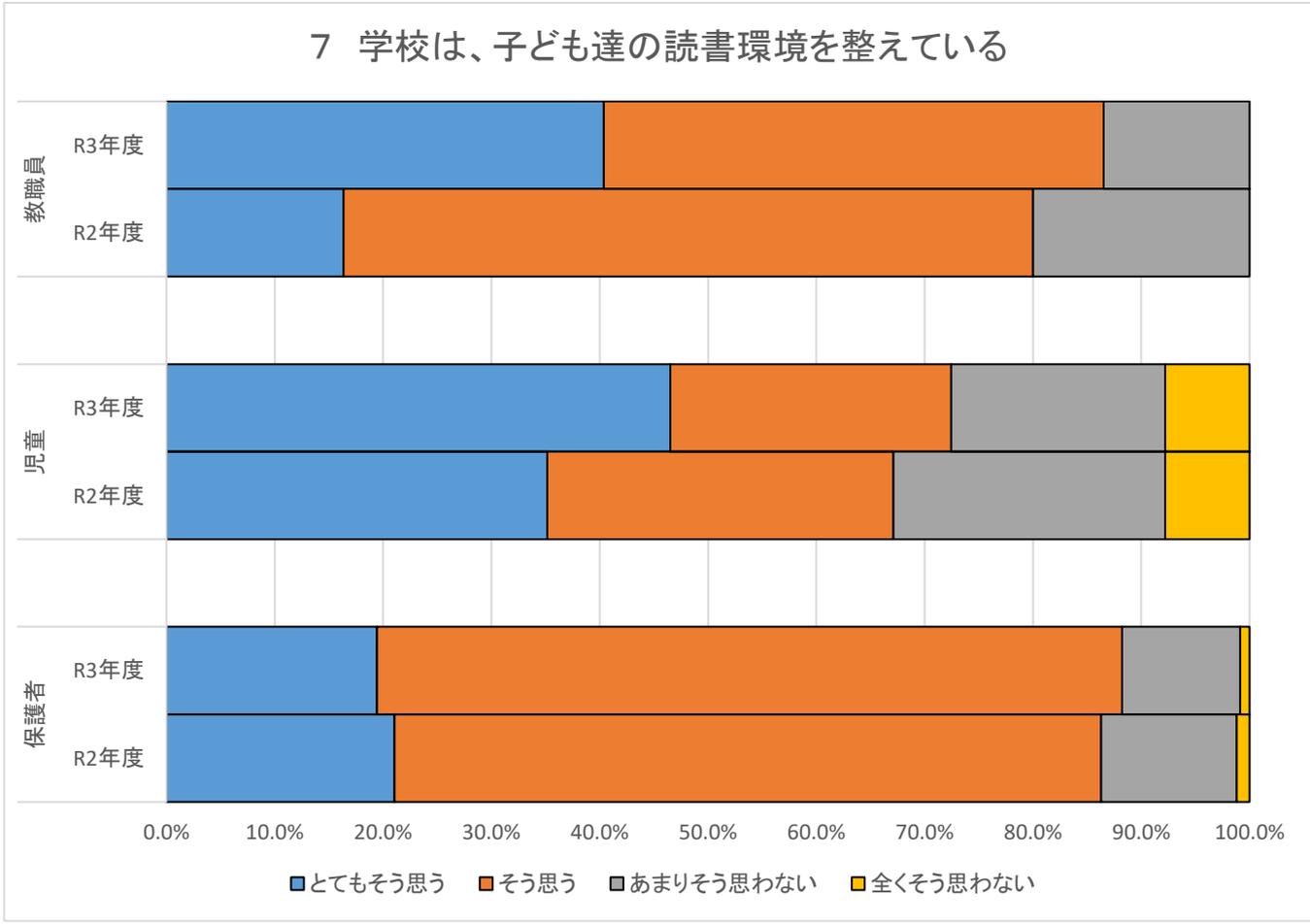
6 学校は、一人一人の特性を大切に指導・支援を行っている



(7) 学校は、子どもたちの読書環境を整えている。

今年度、図書室の場所が移動し、床や机などが新しくなり日当たりも良くなったため、明るい雰囲気図書室になりました。また今年度もコロナ禍による制限がありながらも「図書ボランティア」や「おはなしのもり」の方々のご協力により、読書環境を整えていただいています。

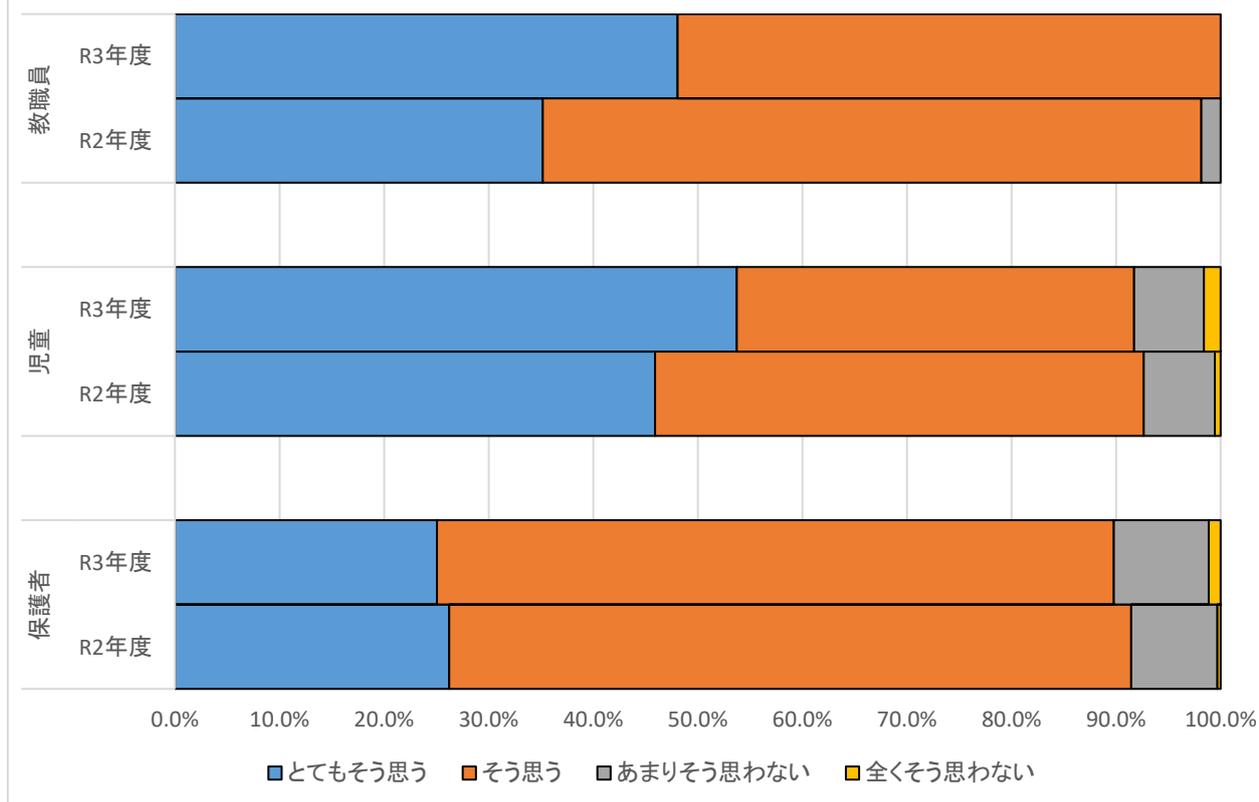
アンケートの結果から昨年度と比較すると、全体的に肯定的な意見が増加しました。市の取り組みである「R1読書グランプリ」では市内の学校の平均貸出冊数を超え、更に昨年度のこの時期の本校の本の貸出冊数は昨年度の2倍近く増加しました。このことから子供たちの本への関心が高まっていることがうかがえます。今後、更に児童が本に親しみやすい環境づくりや取り組みをしていきたいと思ひます。



(8) 学校の教職員は、子どもや保護者の話をよく聞いてくれ、相談しやすい。

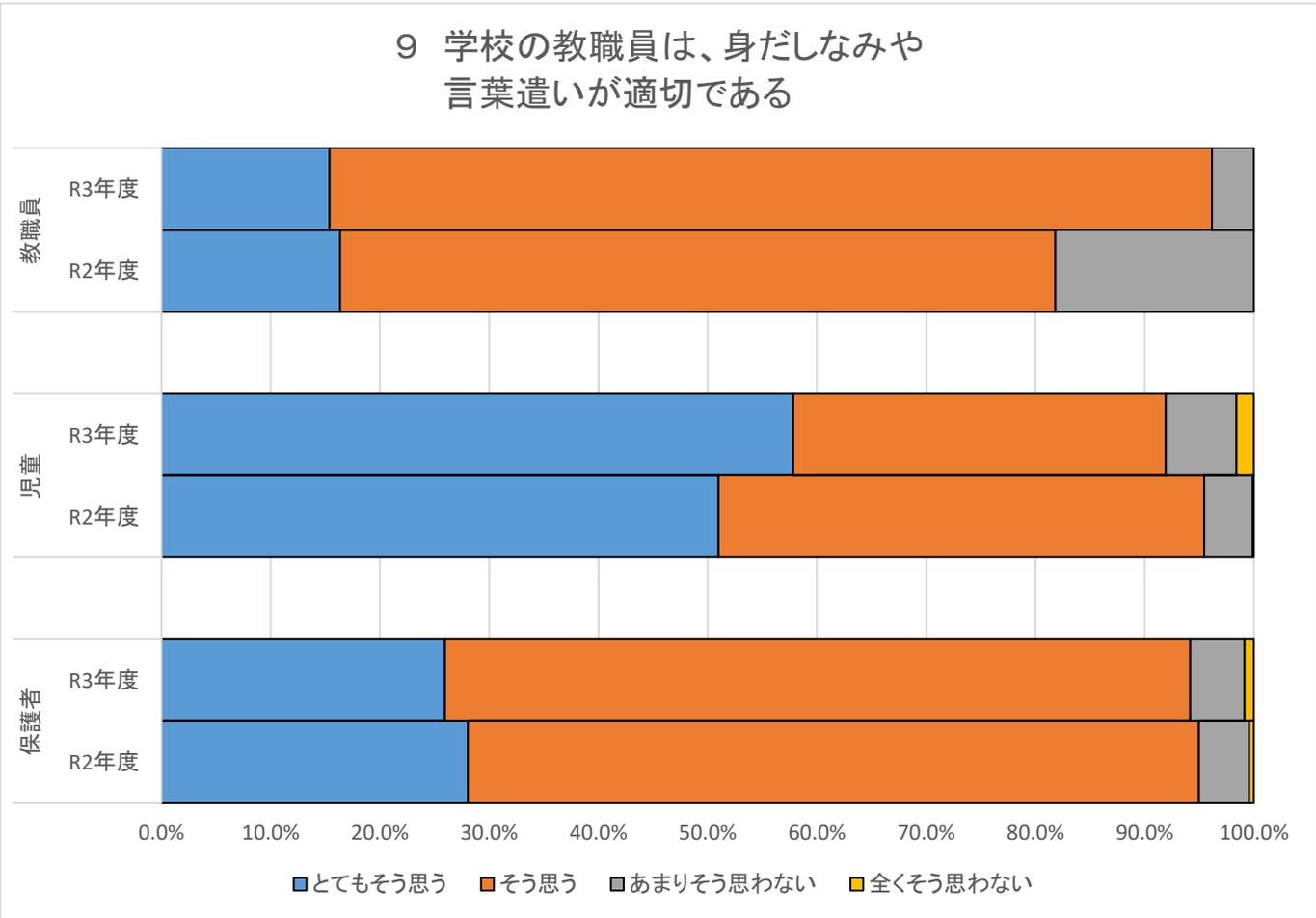
肯定的な回答が全体的に 90%を超え、好評価をいただきました。自由意見からも児童に寄り添った指導、きめ細かい指導に対して肯定的なご意見を多数お寄せいただきました。しかし、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答した保護者の方は合わせて 10.2%、児童は 8.3%もの厳しい評価となりました。学校では、子供たちの悩みや困りごとを相談できる悩みごと相談員や悩みごと相談ポストがあることを児童へ周知しています。子供たちへの支援・指導は、担任だけではなく学校全体で対応していきますので、気になることがありましたら遠慮なく、学校へご相談ください。

8 学校の教職員は、子どもや保護者の話をよく聞いてくれ、相談しやすい



(9) 学校の教職員は、見出しなみや言葉遣いが適切である。

肯定的な回答が保護者、児童、教職員共に 90%を超えているものの、児童、保護者の評価は昨年度よりも下がりました。自由意見では教職員の言葉遣いに不安を感じている保護者の方もいました。「怒鳴るのではなく諭してほしい」「適切な言葉遣いについて学校として取り組んでほしい」などの声が寄せられました。学校では適切な言葉遣いで指導に当たることを全職員共通理解しておりますが、徹底されていない現状を真摯に受け止め、改善に努めて参ります。時には厳しく指導しなくてはならない場面もありますが、そこには愛情を持って子どもの心に寄り添った言葉で指導していくことを再度全職員と共通理解して参ります。



(10) 学校は、授業や行事など学校生活の中で、保護者や地域との関わりを大切にしている。

児童、教職員共に昨年度との比較で肯定的な回答の数値が上がりました。特に児童においては17.9%もの大幅な上昇が見られました。

昨年度に引き続きコロナの影響により様々な活動が制限されてしまいましたが、児童の回答結果の背景には、現在の置かれている状況を受け入れ、自分たちで工夫してできる限り学校生活を楽しもうとする姿が見られます。私たちはこのような前向きに頑張っている子供たちの気持ちを大切にすると共に、保護者の皆様からいただいた様々なご意見を参考にさせていただき、今後の改善に向けて検討していきたいと思ひます。

